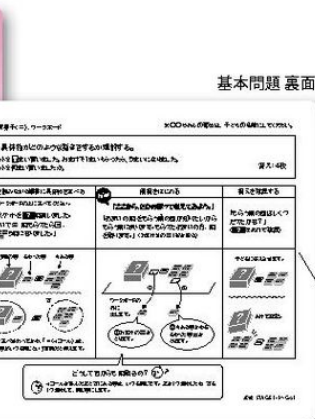




基本問題 おもて面



基本問題 裏面

問題カードの構成

問題カードは、基本問題「やってみよう！」と、練習問題に分かれています。おもて面には問題、基本問題の裏面には具体物の操作の方法、練習問題の裏面には、その問題のつまづきに対しての対処方法が書かれています。

基本問題の裏面は、教示の方法やポイント、具体物の操作方法などが図解してあります。

理解度に応じた全86問の文章問題。

整数の「1操作問題」から、「3操作問題」までの文章問題を網羅。算数の**新指導要領**に対応した問題もありますので、授業に組み込むことも可能です。



特別支援で…個別指導や少人数の学習に適しています。お子さんの特性に合わせてお使いください。

授業で…4名程度が適当です。子ども同士で役割分担をして、順番に回して下さい。

家庭で…スモールステップですので、ご家庭でも安心して学習を進められます。

中学生…生徒さんが苦手とする項目から、学習しなおすことができます。

算数を通して『考える力』を身につける

9歳の壁を乗り越えよう

算数の文章問題を解くには、言葉を数字や演算子に置き換える力、文章をわかる力、それらの順番を組み合わせた置き換えるなど、1つのことを様々な面から見る力「操作力=論理的思考力」が必要です。

発達心理学者のピアジェによれば、9歳~10歳ごろは、見たまま聞いたままのものを判断する“直感思考”から、見た目にと左右されずに論理的に考える“具体的操作期”に移行し、『考える力』が大きく成長する時期と言われています。文章問題が苦手な子どもは、この時期に身につく「操作力」をまだ獲得できず、つまづいている状態です。これがいわゆる「9歳の壁」といわれるものです。

操作力を身につけるには、具体的な実体験をしながら、その中に意味を見出し、実体験と意味を結び付けて学習していく必要があります。

考える力を育てよう

さかのぼって考えることを「可逆的思考」と言います。算数の文章問題には逆算しなければ答えの出ない問題がありますが、それらの問題を解くには、文章を理解し、言葉を記号に置き換え、数どうしの位置関係を見渡し、さらに計算をひとつずつ前にさかのぼる思考力が必要です。「難しい」「めんどろ」と敬遠されそうですが、可逆性を含んだ問題をたくさん解くことは、子どもの「考える力」を育てるには最適です。

《ワクワク！算数らんど》は、可逆的思考が必要な問題を解きながら、子どものさまざまな「考える力」を育てることをねらいとしています。

算数を通して身につけた論理的思考力と可逆的思考力は、子どもが日常の場面で問題に直面したときの「問題解決力」に通じるものです。子ども達の考える力に磨きをかけることで、問題解決の力を育てていくことが、開発者の願いです。

¥11,025 (税込)

問題カード32枚・ワークボード1枚
ワークシート2枚・オリジナル問題用紙2枚
立体ブラックボックス1セット
具体物(バスケット)30個・チップ各種240枚
操作カバー1枚・説明書1冊
寸法/外箱:265×195×50mm

監修:本田 恵子 (早稲田大学教育学部教授)
著者:村上 義次 (特別支援教育士 学校心理士 臨床発達心理士)
岡田 佳子 (早稲田大学非常勤講師 特別支援教育士)
阿部 麻里 (特別支援教育支援員)